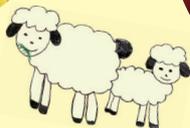
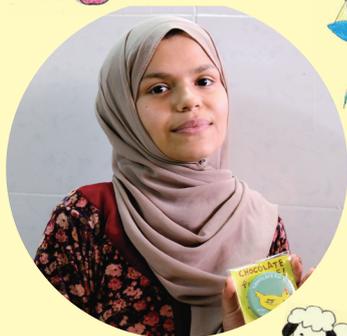


JIM-NET 便り



3月号 (発行：2021年3月18日)

チョコ募金ありがとうございました！



NEWS

- コロナ禍での JIM-NET の現地支援活動..... 牧野アンドレ (アルビル駐在員) P.2
★現地スタッフから★北イラクのクルディスタンから、こんにちは！ Vol.3 ヒロハン (アルビル事務所) P.3
イラクの子どもたちと福島の子供たち..... 鎌仲ひとみ (JIM-NET 理事・映画監督) P.5
チョコ募金キックオフチャリティトークイベント JUSTPEACE! 崔 麻里 (イベント担当) P.6
チョコ募金へのご協力をありがとうございました！ 岩崎ルミ (チョコ募金担当) P.7
KAMATA のつづやき..... 鎌田 實 (JIM-NET 代表・医師) P.8



コロナ禍での JIM-NET の現地支援活動

楽しいクリスマスパーティ、全員集合！

アルビルからこんにちは！

お陰さまで JIM-NET 現地スタッフも皆、元気に 2021 年を迎えることができ、気持ちを新たに日々活動に向かっています。今年のイラクの冬は例年に比べて雨が少なく、作物が育たず農家の人たちが困っているというニュースをよく耳にします。2月に入り日中 20℃を越す日も増え、春もすぐ目の前に来ています。

コロナ禍に見舞われた 2020 年でしたが、JIM-NET アルビル事務所では嬉しいニュースが続いた年でもありました、4月にはヒワ、6月にはラワンド、7月にはバルザンにそれぞれ子どもが生まれ、2021年2月には夜間スタッフのガサンにも子どもが生まれました。また現在、シリア支援担当スタッフのリームも妊娠6ヵ月目に入っており、今年5月に出産予定です。また JIM-NET ファミリーが大きくなることを嬉しく思います。

長らくお休みしていた院内学級は 11 月から再開され、JIM-NET ハウスには毎日子どもたちの元気な声で溢れています。ただ、イラクでも未だに新型コロナウイルスの感染が確認されているため、手洗いやアルコール消毒、マスクの着用など、院内学級の感染対策を徹底してクラスを運営しています。

今年度は 15 人程の子どもたちが習熟度レベル別に 3 クラスに分けられ、クルド語、英語、算数やお絵描きなどのアクティビティを、先生たちと一緒に楽しく学んでいます。治療中の子には少しでも癒しの場となり、学校に戻れそうな子たちにはその準備をしてもらう。病院と連携しながら子どもたちのニーズに合わせた学びの場を、JIM-NET では今後も提供していきたいと思います。

さて、12 月には院内学級で 2 つのイベントが開かれました。一つ目は「クルド旗の日」イベント。毎年 12 月 17 日はイラク・クルド自治区では「旗の日」とされており、1993 年に初めてクルド自治区の議会



院内学級も再開！子どもたちが戻ってきました。



が開かれた日をお祝いします。子どもたちもおめかしして、病院のスタッフたちと一緒にお祝いをしました。

そして2つ目は12月終わりにパートナー団体のKSC（クルディッシュ・セーブ・ザ・チルドレン）と一緒に、白血病を患う子どもたちとその兄弟姉妹のためにクリスマスパーティーを開催しました。当日は20人を超える子どもたちが参加してくれ、お絵描きやミニゲームなどの催し物を行い、最後にはサンタさんからプレゼントが配られました。コロナ禍で長く家にいたJIM-NETハウスの子どもたち、久しぶりに思いっきり友だちとの時間を楽しむ姿が見られました。また、昨年から新しく着任されました、アルビル領事事務所の長山領事もご参加くださり、JIM-NETの活動をご覧になりました。

難民キャンプへの医薬品・PPE 支援 ～国際社会の支援が減っていく中で～

昨年末には、難民キャンプに対する医薬品支援、さらにまだ届けられていなかったPPE（Personal Protective Equipment = 個人防護具）支援等も行いました。11月にはドホーク県にある約3万人のヤジディ教徒の国内避難民が暮らすカバルト難民キャンプに医



カバルト難民キャンプに対するPPE支援。

薬品とマスクなどのPPEを、12月にはバルダラシュ・シリア難民キャンプに妊産婦を対象とした医薬品などを届けました。コロナ禍でも継続させてきた粉ミルク支援に加えて、多くの難民・国内避難民に医療物資や医薬品を届けることができました。キャンプの診療所のスタッフさんからも、国際社会の支援がどんどん減っていく中、支援を続けているJIM-NETに対して感謝の言葉をいただきました。

ご支援いただいた皆さまに改めて御礼申し上げます。

牧野アンドレ（アルビル駐在員）



★現地スタッフから★ 北イラクのクルディスタンから、こんにちは！ Vol.3

日本の皆さんこんにちは。JIM-NETスタッフで、JIM-NETハウスのハウスキーパーをしているヒロハンと申します。アルビルの出身で、8歳になる娘と暮らしています。

JIM-NETはマネージャーやスタッフたちの間に垣根がなく、いつもリスペクトを持って接してくれる温かい職場です。

JIM-NETハウスを訪れる患者の家族から、子どもの

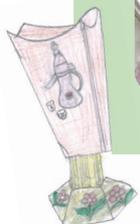
苦しい治療などの話を耳にすると、とても胸が締め付けられる思いがします。しかしそれ以上に、私のいるキッチンにお母さんたちが寄ってくれ、がんを克服し元気になった子どもたちの話をしてくれたり、JIM-NETハウスに来ている子どもたちが、私が準備したフルーツを美味しそうに食べている様子を見たり、またJIM-NETのスタッフたちが私の作るご飯に「おいしい！」と言ってくれることが何よりも幸せな瞬間です。



ドルマ



マクルーベ





★ JIM-NET ハウスの最近の様子★





イラクの子どもたちと福島の子もたち

鎌仲ひとみ (JIM-NET 理事・映画監督)



私はイラクで白血病やがんの子どもたちと出会ってから、作品を作る方法やテーマをそれまでと全く変えてしまいました。テレビから映画へ、核の問題だけに焦点を当てて作品を作るようになったのです。

イラクの子どもたちは未だ証明されていないけれど、劣化ウラン弾の被害者ではないか、と私は思っています。あるいは、膨大に使われた化学兵器と低線量被ばくの複合的な影響かもしれません。現時点では科学的に証明することは不可能です。

しかし、現実として放射性物質で兵器を作って使うということを、人類はやった。劣化ウラン弾は原爆後に現れた放射能兵器です。なぜこんなものが使われ、放置されて来たのか。

1998 年当時、私が出会ったイラクの子どもたちはほとんど満足な治療を受けることができないまま亡くなりました。そこには被ばくだけではなく、経済制裁もまた関与していました。

子どもの命を救うことができない、いやそれ以前に未来世代を危機に晒している世界のあり方、矛盾に打ちのめされた胸の痛みはまだ私の中に残っています。

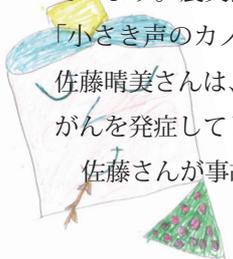
2011 年 3 月 11 日に起きた東京電力福島第 1 原発事故、広大な汚染地に何十万人もの子どもたちが住み続けることとなりました。事故当初から子どもたちを被ばくさせないための防御が十分に足りていないと感じています。甲状腺検査も様々な問題を孕んでいます。

イラクの子どもたちは今、なんとか医療を受けることができるようになりました。その病気の原因がなんであれ、私が初めて訪れた当時と比べれば、格段に質の良い医療が子どもたちに届いていると思います。しかし、福島の子もたちはどうなのでしょう。

◆健康被害が空洞化している

3.11 から 10 年が経ち、新たな 10 年目が始まろうとしています。震災直後から取材を始め、2015 年に完成した「小さき声のカノン」に登場して体験を語ってくださった佐藤晴美さんは、震災後体調不良が続き、昨年、ついに乳がんを発症してしまいました。

佐藤さんが事故当時住んでいたのは福島市内です。ホー



ムセンターで働いていたのですが、その地域は避難指示が全く出しておらず、避難を決めた頃、その敷地の線量が異常に高いことが判りました。佐藤さんの次女と一緒に避難せず福島市内に残り、長男を出産しました。長男は難聴の障害を持って生まれてきました。その後生まれた次男も同じ障害があります。

チェルノブイリでは事故当時、どこに住んでいたかによって被ばくの程度が分類されています。そして、健康検査や子どもたちの保養など、35 年経った今も続けられています。特定の健康被害があれば科学的な証明ができなくとも、チェルノブイリとの関連を当たり前のように認めてくれます。日本は 10 年経ってもチェルノブイリ並みのことができていないのです。

年間の総被ばく量を 1 ミリシーベルトから 20 ミリシーベルトに引き上げたままですし、そのレベルで健康被害が出ないと言われれば、健康被害が出ても無視されるだけの状態。健康被害が表に出てこない様々な理由が存在しています。

◆被ばくからいかに子どもたちを守るか

私の胸にこの 10 年ずっとあり続けている問いは「原発事故から子どもたちは本当に守られているのか」というものです。そして、その答えは NO です。

今年、1 月 21 日、「核兵器禁止条約」が発効しました。人類は核兵器を使わない道を歩み始めています。劣化ウラン弾も近い将来使えなくなるでしょう。

しかし、放射能汚染は長く続きます。健康への影響は時間が経ってから出てきます。まだまだ東京電力福島第一原発事故の影響は残り続けるでしょう。

被ばくからいかに子どもたちの健康と命を守るかという課題はまだ残り続けると思います。だから私は決して忘れない、と日々気持ちを新たにしています。



チョコ募金キックオフチャリティートークイベント

Justpeace!

2020年11月6日(金) オンライン配信



コロナ禍で取り組んだチョコ募金とキックオフイベントは、初めてのことばかりで右往左往しましたが、「コロナウィルスの感染拡大」を避けることを第一に考え、頭を切り替えてオンラインライブ配信にチャレンジしました。

無観客で配信としたため、遠方の方々は勿論、ご都合に

合わせて配信内容を視聴頂けるようになり、これまでより多くの方々がキックオフイベントを楽しんでくださいました。DVD版は今でもお求め頂けますので、ぜひ、お申込みください!

(イベント担当: 崔麻里)



サヘル・ローズさん

♥プログラム♥

♥スペシャルパフォーマンス サヘル・ローズさん

♥ミニファッションショー

tenbo デザイナー・鶴田能史さんの作品をゲストが身にまとして登壇します。

鶴田氏によるデザインのテーマ紹介。



鶴田能史さん

♥JUSTPEACE! スペシャルトーク

♪各ゲストが貴重なお話をしてくださいました♪

イラク現地スタッフ紹介

イラク駐在員・牧野アンドレからの現地報告

トーク: サヘル・ローズさん、鶴田能史さん、湯川れい子さん、斉藤とも子さん、鎌田實

♥SUGIZO さん(LUNA SEA, X JAPAN ギタリスト)の

映像出演&スペシャルメッセージ

♥JUSTPEACE! ピアノリサイタル 堀江明子さん

♥チョコ募金とチョコ缶ができるまで

♥アニメ「チョコレートノウタ」

野田美波子先生(筑波学院大学メディアデザイン科)



湯川れい子さん



斉藤とも子さん



JIM-NET 代表 鎌田實



堀江明子さん

手前 JIM-NET 海外事業部の斉藤亮平

《 DVD お申込み方法 》

DVD 1枚 2,000円

◆インターネット:こちらよりご購入をお願い致します⇒ <https://npjim-net.square.site/>

◆ゆうちょ銀行振替口座へのお振込み 00540-2-94945 / 日本イラク医療ネット

同封の払込票にご連絡先と「DVD 希望」とご明記の上、お振込みください。

※入金確認後、DVD を発送いたします。





チョコ募金へのご協力をありがとうございました！

今年は、「新型コロナウイルスの影響で大変な状況下の中で、実施数 10 万個を達成できるのだろうか？」とスタッフ一同ハラハラドキドキのチョコ募金受付となりました。11 月 16 日の受付スタートと同時に、いつも以上にたくさんの方々からのお申込みをいただき、皆さまの温かいご支援に心から感謝申し上げます。

とても嬉しいことに、多数のお申込みが続き、スタート後 1 週間もしないうちに、在庫が足りなくなるかも！という、チョコ募金始まって以来のチョコ入荷待ちになりました。このような嬉しい反響を六花亭様にご連絡したところ、六花亭様のご厚意で、急遽 2 万個を増産をしていただけることになりました。六花亭様を始め、缶を作らせてくださっている古茂田工業様、チョコカードを印刷して下さっている山猫印刷様、

封入作業してくださっている福祉作業所はなみずき様など、多くの方々のご協力とご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。

また、受付途中でチョコの入荷待ちとなり、お申込みいただいた方々にはお届けまでにお時間を頂戴する形となってしまったにも関わらず、皆さまが快くご了承くださり、応援の言葉までいただき、スタッフもたくさん元気を頂戴いたしました。

通常とは異なる状況でありましたが、皆さまからのたくさんの温かい応援のお蔭で、今年も無事にチョコ募金を終了することができました。皆さまからのご寄付は、大切に現地の子どもたちのための活動に使わせていただきます。

引き続き、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。(チョコ募金担当：岩崎ルミ)

★初めてチョコ募金受付スタッフを体験して★

JIM-NET やチョコ募金を知ったのは、2015 年頃ギャラリー日比谷でイラクの子どもたちの絵を見たことがきっかけです。戦争に翻弄される子どもたちの深刻な状況に少なからずショックを受け、子どもたちに罪はないのにと、以来募金を続けています。

そして募金以外に手伝えることはないか考えていたところ受付募集の告知を目にしました。

受付を始めてわかったのは、善意の発揮どころを求めている人はたくさんいるということです。その思いに丁寧に応えて続けていくことが大切だと感じました。(受付スタッフ 小川)



(岩崎ルミ)



(大嶋 愛)



(吉田祥子)



(森たかの)



(芦澤礼子)

※ tenbo デザイナー・鶴田能史さんが描いてくださったチョコ募金スタッフの似顔絵です。



イラクとシリアの子どもたちの絵とともに…



「子どもたちの絵をどんな方法で親しんで頂けるかな？」と常日頃から考えつつも日々の業務に追われていましたが、コロナ禍で初めてのステイホームがきっかけで、新しい取り組みにチャレンジするこ

とになりました。今年の初夏には皆さまに喜んで頂けるよう絶賛準備中です。どうぞお楽しみに!!





コロナ禍で心の健康を守る

内科外来をやっていると、こんな患者さんが見受けられるようになってきました。

①**フレイル（虚弱）**。ステイホームで筋肉の萎縮が起きる。運動と、蛋白質を摂ることが大事。

②**認知機能の低下**。この予防にいいのは「コグニサイズ」。足踏みをしながら一人じゃんけんや、しりとりをする。体を動かすことと頭を働かすこと、2つのことを同時にする。

③**コロナうつ**。不安感が強まって、いらいら、不眠、疲れやすい、だるいなど。自分を責めてばかりの人、気力が湧かない人、食欲が落ちる人、不安で食べ続ける人もいます。

今回は「コロナうつ」に注目します。予防のためには、まず「情報を制限する」ことです。太陽にあたること、運動も大事です。三密に注意して、マスクをかけて散歩に出たり、外でスクワットをするのも効果があります。

オンラインや電話で、世間話や無駄話や、お互いの安否確認をするだけでもいいです。できればマスクをかけて、短時間のリアルなコミュニケーションが取れれば最高です。「あなたのことを忘れてないよ」というメッセージを出すだけで、その人のためにも自分のためにもなるのです。

アメリカのブリガム・ヤング大学の調査では、パートナーがいると死亡リスクが下がりますが、人間関係が険悪だとかえって健康を害するという結果が出ています。良い人間関係は健康をつくれます。会社や組織でうまくいかないときには、新しい生き方を考えるのも



アルビル事務所スタッフ集合！左端が牧野、右端が斉藤。

必要かもしれません。

ハーバード大学は、50歳以上の約1万4千人を4年間追跡調査しました。その結果、ボランティア活動に全く参加しなかった人よりも、年間100時間（週換算で2時間以上）参加している人の方が死亡リスクが44%低く、年間50～99時間参加の人も28%低いことがわかりました。助け合うことは他者との絆を深め、やりがいや幸福感をもたらしてくれます。それは、困難に打ち勝つ力にもなるのです。

コロナ禍の中で、JIM-NET イラク現地駐在員の牧野アンドレ君が、現地スタッフたちと良い人間関係をつくり、活動が円滑に行われています。海外事業担当の斉藤亮平君も短期にイラクでのサポートに入っています。帰国後は5日間ホテルに入って健康状態を確認し、さらに自宅で1週間ほど経過を見ます。もちろんPCR検査も受けます。

JIM-NET スタッフ一同全力でコロナ禍の中で、安全をキープしながら活動をしています。皆さまの応援を心からお待ちしています。

鎌田 實（JIM-NET 代表・医師）

絵画展「JUSTPEACE！」6月に開催します

毎年恒例のギャラリー絵画展は2月開催予定でしたが、1月7日に発令された新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言を受け、6月25日（金）～29日（火）に延期いたします。

会場は、長い間お世話になったギャラリー日比谷からEBISU ROOM(恵比寿駅から徒歩3分)となります。小さなワークショップ等もできるスペースです。皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

詳細は改めてお知らせいたします。



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

特定非営利活動法人 JIM-NET（ジムネット）
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C
電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net
Facebook、Twitter、Instagram もぜひご覧ください。
『JIM-NET』で検索！ 募金・サポーター会費はこちら→

